

# オリンダ通信

「小井沼眞樹子宣教師と共に歩む会」会報

第7号

共同代表：松本敏之、大倉一郎  
事務局：横浜港南台教会 秋吉隆雄  
〒234-0054 横浜市港南区港南台 7-8-29  
Tel 045-833-5323 Fax 045-833-6616  
郵便振替口座番号：00210-2-97571

## 第1期の宣教奉仕を終えて

小井沼眞樹子

3月4日、35時間の空路の旅を経て真夏のレシーフエから気温4℃の成田に着きました。あまりの寒さに縮みあがり、12時間の時差の調整にも日にちがかかりましたが、ようやく慣れてきて、いま、5年ぶりの桜の美しさを満喫しています。

3年という期間は、異国で過ごす者にとって一つの節目のようです。自由にしゃべれる嬉しさ、何を食べてもおいしく、温かいお風呂につかって日本にいる幸せをかみしめています。けれども、被災された方々の悲しみ苦しみ、現在日本の抱えている原発問題の深刻さがどっと押し寄せてきて、小さな私の頭の中はパニック状態。浦島花子のような私ですが、心から祈りをささげ、私でも何かできることはないか探しています。

今回の通信では、アルト・ダ・ボンダージ教会のイヴァン牧師と、信徒リーダーのジャニさんに私の3年間の宣教活動を評価して頂きました。日本語では活動後に反省会をしますが、ブラジルでは評価という表現を使い、牧師の働きについても信徒が評価する習わしがあります。

### 小井沼眞樹子牧師の宣教評価

イヴァン・カルロス・コスタ・マルチン牧師

#### はじめに

アルト・ダ・ボンダージ教会はオリンダ市の一地区に存在し、イエス・キリストの福音を信じて歩んでいます。そして信仰の実践を通してこの地域に証していく「神の愛のしるし」でありたいと願っています。社会的、経済的な次元で直面している問題はとても大きいものです。特に、安定した仕事を得るために必要な技能の不足、基本的医療、衛生設備の不備、家庭内暴力、麻薬・アルコール依存症の問題は深刻です。

さらに憂慮すべき事実として、宗教的消費主義の問題を挙げねばなりません。この地域には相当な数の「イエスを売り物にする」教会が建てられており、現実問題

から目をそらし、奇跡待望の熱狂的信仰を福音として説いています。

そのような周辺環境のなかで、私たちは奉仕グループの担当者たちが話し合いを重ねながらとても成長し、沢山の活動をしています。信徒養成会、賛美グループ、青年や女性を支援する社会活動、ダンスグループなど。

教会学校や祈祷会のように誰でも参加できる集会和、奉仕グループ・リーダー会や、説教者養成会のように参加者が限定されている集会もあります。

また隣接する保育園「ジェンチ・ノーバ（＝新しい人々）」は教区のコミュニティー・センターの管轄にありますが、これに対する支援として、子どもたちや保育者たちと毎週1回小礼拝を行っています。

#### 1. 教会活動への参加と地域との触れ合い

初めの数か月間、眞樹子師はポルトガル語の理解力、表現力の限界を抱えながらもこの信仰共同体とその特徴、教会が行っている諸活動をよりよく知り、異文化の中に入って行こうと努力しました。また宣教師としてノルデスチ・メソジスト教会との関係形成にも努めました。



イヴァン牧師と信徒リーダーのスエリー

また当初は、地域の女性たちにミシンを使って布バッグを作る活動を提供しましたが、残念ながらしばらくしてこのグループは解散してしまいました。

初期に創設したこととしてもうひとつ「連帯基金」を挙げることができます。これは失業中の教会員が職につながるために、教会が低利子で小額の融資をするもので、眞樹子師が目下責任者となり、現在までに4名がこれを利用、成功して返却中の人は2名です。

さらにその当時、特に指導を必要としていた賛美グループに参加しました。幸いなことに眞樹子師の尽力によって、今日、賛美グループはとても成長し、良い奉仕をしています。

中期以降には地域のなかを訪問できるようになり、数人の人々に必要な援助をしてきました。その中には、極貧家庭の子どもの教育支援や、家で孤立していた歩行困難な女性との交流が挙げられます。

これらの教会活動、地域奉仕と並行して、眞樹子師はブラジルと日本のキリスト者間のエキュメニカルな交流活動を推進しました。

## 2. 音楽プロジェクトについて

賛美グループの問題を体験してから、私たち宣教執行部にひとつの夢が生まれました。それは賛美グループの奉仕者を育成するために、音楽教室（ギター、エレクトーン、後にはドラムにまで発展しました）を開設し、それらを地域にも開かれた場として若者たちが麻薬や暴力沙汰に巻き込まれるのを防ぎ、将来の希望につながる健康的な時間の過ごし方を提供しようというものです。同時に、そこに参加する体験を通して、青少年、少女の心にキリスト教の価値感や特質が形成されることを願っていました。

眞樹子師の仲介で日本から届けられる献金によって、これらの音楽活動は2年目にはすでに開始され、この活動を通して若者たちがイエス・キリストについて知る機会となり、賛美グループに参加し始めています。その中から受洗者も与えられました。教室では、勉学することの重要性や自分の生き方に責任を持つことの大切さを教え、中高生や青年たちが人生について考え、積極的な姿勢を持てるよう助けています。

## 3. 牧会的観点から

眞樹子師の存在は、次のような理由で教会にとって重要なものとなっています。

- a) 生き方に密着した信仰  
宣教生活の終盤にあってチャレンジしている。
- b) イエス・キリストの真の福音を伝える説教  
生き方の方向転換（悔い改め）と人間愛を説く。
- c) 貧しい人々、周縁化された人々との関わりが、常に希望をもたらしていること。

最後に、小井沼眞樹子師をこの教会に送ってくださった神に感謝します。彼女の存在は神の恵みのしるしです！十字架につけられたイエスへの愛によって、人々に深い思いやりをもって尽くす眞樹子師の姿から、私たちは多くのことを学んできました。私たちの友情は個人的にも成長と分かち合いの機会となっています。次の任期3年も眞樹子師と共にいられることは、きっと私たちにとって大きな喜びとなるでしょう。



音楽教室の生徒たちの発表会

## 3年を振り返って

### ジャニ・メネゼス・ブラクバーン

#### 1. はじめに

私が眞樹子師と初めて出会ったのは、1996年にリオデジャネイロで開かれたメソジスト女性国際会議に参加したときのことでした。

そして1997年に、私たちアルト・ダ・ボンダージ教会に松本敏之牧師をお迎えしたのですが、彼がまたマキコの友人だったのです。その後数年間、彼女は日本からの訪問客と一緒に何回か、ノルデスチ(北東部)のメソジスト教会に属するアルト・ダ・ボンダージ教会を訪ねて来られました。

トーマス(亡夫國光の愛称ブラジル名)と死別するなど、身辺状況に意味深い変化があつてしばらく日本で生活し



たあと、マキコはアルト・ダ・ボンダージ教会への宣教奉仕を私たちと共に担う可能性を模索し、それを実践に移したのです。

## 2. 眞樹子師の宣教奉仕について

a. 眞樹子師がサンパウロに住んでいたときには、そこの生活条件としてポルトガル語で話したり、ブラジル文化にどっぷり浸かる必要がありませんでした。というのもそこには日系社会が存在していたからです。ノルデスチには独特の文化があり、移民社会の影響をあまり受けなかったため、マキコがオランダで生活を始めてしばらくは、新しい環境に慣れ、ポ語での会話のやりとりを学び、なによりも人々が何を話しているのかを聞きとれるようになるまでに時間がかかりました。

より広く、政治的、社会的、文化的な事からや地区について、またそこに存在している教会について知ることができるようになるには3年間では時間が足りませんでした。またブラジルのプロスタント教会にも、知っておいて頂きたい特質があります。

b. 教会や地域の人々との関係は、友好的雰囲気の中かで深まっていきました。アルト・ダ・ボンダージの人々は、幼い子供たちから高齢者まで年齢を問わず、愛情と喜びを持って眞樹子師を受け入れています。マキコは特に、最も貧しく困窮している人々の日常体験に関心を示しています。

c. 3年目に入ってから、眞樹子師はノルデスチの文化をさらによく知り、それと折り合いをつけながら生きることができるようになっています。また民衆の言葉や表現をよりよく理解できるようになり、ポ語でのコミュニケーションも上達してきました。これは長く時間のかかる過程であり、次の任期においても続けられていくべきものでありますが、マキコはすでにこの分野において進歩してきています。

d. 宣教にはブラジル北東部と日本の教会間の交流を推進することが含まれています。特に、神と共に生きること、信仰と希望を分かち合うことは、ブラジルと日本のどちらの現実のなかでも、私たちが生きていくことを支えるでしょう。この働きにおいて眞樹子師はいつも積極的に実践に努めてきました。私たちは日本人々のために祈り、異なる現実の中に置かれている人々の信仰について聞く機会を持ってきました。このことによって私たちは、信仰を同じくするひとつの大家族であるという気持ちを強めています。

e. 宣教は人生に意味を与え、真実な生き方を求めることを促します。その間、大きな喜びの時もあれば、うま

くいかずにがっかりしたり悲しんだりすることもありましたが、眞樹子師はそのような時も信仰に支えられながら歩み続け、この共同体に貴重な証しを示してくださいました。

最後に、眞樹子牧師が私たちと共にいてくださることは特別の恵みであり、彼女の存在とその信仰の証しを神さまに感謝しています。(邦訳責任：小井沼)



ジャニと私は同じ歳で同じ誕生日。

### 音楽献金とセンター献金にご協力を

この3年間、アルト教会への財政的支援は教会活動に大変大きな実りをもたらしてきたと実感しています。被災地への義捐金に励んでおられる皆さまに、加えて献金の協力をお願いするのは心苦しいことですが、引き続きどうぞよろしく願いいたします。

#### \*音楽献金

現在、音楽教室ではギター、ドラム、エレクトーンのクラスを実施しており、講師は2名、コーディネーター1名が働いています。年間の経費は約40万円です。

#### \*センター献金

コミュニティ・センター建設プロジェクトが具体化し、昨年11月のメソジスト教会総会で推進が認可されました。YOUTUBEでもその宣伝DVDが見られます(但しポ語です)。

<http://www.youtube.com/watch?v=cpbOna96mow>

総工費約4500万円。ブラジル全土、海外の教会へも支援を呼び掛けています。地域の子供たちと家族、青年たちに安全で健康的な教育施設をと願っています。

「小井沼眞樹子宣教師と共に歩む会」会計報告 (2011.4.1～2012.3.31)

収 入

支 出

項 目	累 計	項 目	累 計
会費・特別献金	—	支援金(通常)	—
音楽・施設献金	—	支援金(音楽・施設)	—
利息	—	海外保険	—
	—	事務費	—
	—	振込手数料	—
	—	集会費	—
小 計	—	小 計	—
前年度繰越金(通常)	—	次年度へ繰越(通常)	—
前年度繰越金(音楽・施設)	—	次年度へ繰越(音楽・施設)	—
合 計	—	合 計	—

HPでは、会計報告の金額は省略しています。

年会費・特別献金者名 (敬称略・順不同)

HPでは、個人名、団体名は省略しています。(143件)

音楽・施設献金者名

HPでは、個人名、団体名は省略しています。(45件)

### 編 集 後 記

眞樹子先生が第1期(3年間)の宣教ご奉仕を終え3月お元気に帰国されました。次の任期は、2012年7月から2015年6月までです。

眞樹子先生は帰国後、各地の教会で宣教報告をなさっています。4月5日に横浜港南台教会で「ブラジル宣教報告会」がありました。眞樹子先生から映像を交えて詳しい宣教内容を伺うことが出来ました。日本と異なる文化、生活環境の中で、どんなにかご苦労もあったかと思いますが、先生は常にポジティブに、アクティブに宣教をなさっています。

音楽教室が開設され、その活動は若い人たちに 将

来の希望につながる良き成果が与えられているとの事です。何より嬉しいことは、その若い人たちが受洗をし、教会につながり音楽を通して主を賛美するご奉仕をしています。本当に嬉しいことです。

日本からはるか彼方のアルト・ダ・ボンダーヂ教会やその地域の人々にとって、眞樹子先生の存在は大きな喜びであり心の支えとなっています。これからの眞樹子先生のお働きの上ますます神様のお守りと祝福がありますようお願い申し上げます。

TK (横浜港南台教会員)